

その技術は年々進化してきて

いる。南雲さんが言う。

「再建方法として、昔は自家

移植といつて自分の背中やお

腹の筋肉と脂肪組織を乳房に

移植する方法が一般的でした。

しかし、近年ではインプラン

トを使っての再建が主流にな

っています。そのほうが簡単

にきれいに再建できる。自分

のがんがどんな種類でどのス

テージにあるかで状況は変わ

りますが、温存か全摘出か選

べる場合、その生存率はほと

んど変わりません。温存して

放射線治療を続けたことで乳

房が変形してしまふこともあ

ります。全摘出して再建する

のは有効な選択肢です」

治療法で悩んだ末に、部分

切除を選択したのは、タレン

トの麻木久仁子（52才）だ。

「40才の時から人間ドックを

受けていて、乳がんが見つか

ったのは12年、49才の時でし

た。胸が小さいから乳がん

んて無縁だと思っていて、む

しろ子宮がんのほうを心配し

らがんでした。先生は、最悪

のケースを想定されているの

が見つかって、細胞診をした

けれど、乳頭は残せないかもし

れない」と言わされました」

「乳頭を残すことでの再発のリ

スクが高まる」などという情

報も耳にしていた麻木は、医

師からそう説明を受け、「バ

サツ」といつてください」と威

勢よく答えた。

「でも、そのときは妙にテン

ションが上がっていてそつ言

つてしまつたけれど、後にな

つて、せつかくなら残つたほ

うがいいよね」と思つたり、

また、いやいや乳首のひとつ

ふたつ残すことで命を失つた

うどうするんだ」と思つたり、

強気になつたり、弱気になつ

たりしました。結果的には部

分切除で、乳頭は残りました。

その術式を選んだのは、先生

が決めてくれたことです。患

「再発」のリスクと闘う

医師と充分に相談して無事治療が終わつても、そこがゴールではない。そこから先につきあわなければいけないのは、再発の不安だ。乳がんの5年生存率は9割を超えるが、10年、20年後に転移が見つかることもある。何年経つてもその可能性は決してゼロにはならない。

タレントのアグネス・チャン（60才）は、「07年9月、右胸に乳がんが見つかった。温存手術と放射線治療の後、その後5年間のホルモン治療を受けた。治療が終わつて3年経つた今でも、「再発は怖い」と口にする。

「最初は、ちょっと横になつたときに違和感があつて、触つてみたら何かあるなと思つて、病院でマンモグラフィー

と超音波検査を受けました。そしたら、「何か映つている」と言われて、細胞を取つて調べたら、早期の乳がんだとわかりました。医師をしている姉は、「全部取つたほうがいい」と言つたけど、先生は「残せるなら残したほうがいい」と言つたけど、先生は「残せるたんです」

＊

早期に発見されれば生存率も高く、再発リスクも低いのが乳がんだが、年間1・3万人が亡くなる病であることに変わりはない。そしてなにより、命が助かつたとしても乳房は女性にとって大切なもの。

だからこそ、定期的な検診や日々のセルフチェックが欠かせない。

アグネスは「自分の体験したすべてが誰かのためになる」と前向きに話す。

麻木は「公表したつづきを背中に置いたと振り返つてほんじ」と語る。

は元気になつて毎日楽しいし、活動でいるけど、治療中はつらかった。今も再発の不安があります。でも知り合つた乳がんの人たちとつらいこと、楽しいことをたくさん話して支え合つてきました」

がん治療で最も大切なのは、前向きな気持ちでリラックスした状態を保つこと。アグネスは同じ経験をした「がん友」と支え合つて乗り切り、前出・宮崎はホルモン治療をやめる決断をした。

「ホルモン治療で分泌が制限されたことで倦怠感に襲われ不眠になるなど、さまざまな副作用に苦しみました。ある

時、気功を習い始めたのです

が、その初日の夜、8時間ぐ

っすりと眠れたんです。それ

で医師と相談して治療をやめました。でも、だからこそ生

きるぞ!という力が湧いてきたんです」

転移してなかつたら温存で、と先生に伝えました。結果転移していなくて温存でした」アグネスが乳がんになつたとき、いちばん下の子供はまだ11才だった。

「この子が少なくとも中学卒業するまで、あと5年は絶対生きたいから全力で闘病しようつて思つたんです。今

で乳がんに打ち克とう。

「私塾・坂本竜馬

武田鉄矢

好評発売中!

小学校
文庫

15.10.22-29
女性セブン

62